

1 題材名「18才選挙権の意義について考える②」

2 題材について

(1) 【場面設定】：「時事的な社会事象について、他者との差異や葛藤を生じる問題」を扱う内容

「18歳選挙権は、みんなが幸せになる社会を実現することにつながるのだろうか。」

(2) 18才選挙権とその低投票率から選挙権の意義について考える

公職選挙法改正案により、2016年（平成28年）に選挙権年齢が18才以上に引き下げられた。18,19才の投票率は第1回目の46.78%から、第2回目は40.49%、3回目は31.33%と年々低下の一途をたどっている。18・19・20才代の若者たちが投票へ行かない理由は、個人的な時間や距離の問題等、投票に行くのが面倒だということや、期日前投票の存在を知らないことや、「投票権を行使しても利益は無い」・「自分たちの生活は選挙の前も後もさほど変わらない」等、政治への関心も期待も薄いことがあげられる。また、「選挙権は義務そして権利」であるという考えが希薄であり、選挙権の重要性を認識していないと考えられる。一方、行きたいという意味はあっても、「政党や立候補者の人数が多すぎてどの政党やどの人物に投票したらよいかが決めにくい」などもあげられる。しかし、その理由で投票を棄権するという行為が将来どのように自分たちの実生活に影響してくるかについて、18才選挙権の意義について考えてはいないのではないだろうか。民主主義社会をともに生きていく国民の一人として、真摯に向かい合って考えたい問題である。卒業を目前とする6年生の子どもたちに、選挙権の意義とその歴史的背景とその重みについてともに考え、「18歳選挙権の意義とみんなが幸せになる社会の実現」について真摯に向き合い、様々な立場の人たちが幸せになれる社会の到来を担う社会の主人公は自分たちなのであることを自ら真剣に考える機会をもちたい。

(3) 具体的な「判断の基準」から概念化された「判断の規準」へ

社会的論争問題の「判断の基準」について、初めの事実やデータ、生活経験や既習事項に基づいた具体的な「判断の基準」から、様々な立場の人たちが幸せになれるような概念化された「判断の規準」を対話を通して、問い直していくことを目指したい。

3 学習指導計画（全8時間）

第一次①～③日本の選挙や投票率について考えよう（第一次の詳細は91ページ参照）。

第二次18歳選挙権の意義について考えよう。

④⑤自分の考えの根拠となる必要な情報について資料を収集し、根拠を明らかにした自分の考えをまとめる。

⑥⑦第二回目の価値判断を行い、概念化された「判断の規準」に基づいて、「18歳選挙権の意義」について、自分の考えを述べ、全体で話し合う。

⑧18歳選挙権の意義について、自分の考えをまとめ、深める。

4 本時について（8時間目）

(1) 本時のねらい

「18歳選挙権」について、「判断の規準」に基づいて話し合い、自分の考えを述べたり友だちの考えに付け足したり、異なる意見を述べたりしながら、自分の考えを問い直し再構築する。

(2) 予想される本時の展開

予想される子どもの姿	留意点
<p>○本時の課題を確認する。</p> <p>○本時の課題に対する自分の考えを「判断の規準」に基づいて述べ、友だちの考えに付け足したり、異なる意見を述べたりしながら、自分の考えを問い直す。</p> <p>○本時の話し合いから、18歳選挙権の意義について友だちの意見を受け止めながら、自分の考えをもう一度振り返り再構築する。</p>	<p>・概念化された「判断の規準」に基づいて考えを述べるように促す。</p>

□授業後の話し合いで話題にしたいこと

概念化された「判断の規準」に基づいた話し合いを深めるための指導者の役割は適切だったか。